

不登校児童生徒に対する支援体制についての考察
—京都府北部 A 町のアンケート調査より—

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
人間形成・臨床教育クラスター
浪江 志乃

本研究においては、不登校児童生徒に対する学校の支援体制の課題について明らかにし、今後の学校における支援体制と、不登校児童生徒に対する具体的な支援のあり方について検討することを目的としている。研究方法としては、京都府北部に位置する A 町の小中学校で 2 種類のアンケート調査を実施した。その結果を基に、A 町における不登校児童生徒への学校支援体制および支援の現状と課題を明らかにし、機能する学校の支援体制・望ましい支援のあり方・今後の不登校対策について考察を行ったものである。

アンケートの結果、不登校児童生徒を学校全体で支援する支援体制作りが大きな課題であることが明らかになった。A 町の支援体制は、チームで支援に取り組む視点が弱いため、職員の支援がバラバラに行われている傾向が窺えた。教員全員が自校の不登校の実態と取り組み状況を知り、全体で関わろうとする意識を持つことが、支援体制を機能させる第一歩だと考える。また、不登校児童生徒に適切な支援を行うためには、教員の不登校理解と対応能力の向上、小中連携の充実、学校内外の支援ネットワークの構築が課題であることがわかった。アンケートより、家庭・学校・専門機関は、子どもについて共通理解を図り、初期段階で不登校児童生徒と家庭の支援を行うことが不登校状況の改善につながることを示唆された。学校と専門機関のネットワーク支援の充実は、今後の大きな課題である。専門機関との連携だけでなく、小学校と中学校の連携においては、不登校未然防止を意識した内容の申し送りと、申し送りの内容把握と最大活用が求められる。

以上の課題をふまえ、A 町ですぐにでき得る不登校対策案を 2 点提示した。一つめは、保育園、幼稚園、小学校、中学校、以上 4 種の校種間連携の実施である。不登校児童生徒の事例を皆で検討することで、不登校への理解と対応を学ぶ機会となる。縦と横のつながりが形成され、今後の連携支援に活かされることが期待できる。二つめは、滋賀県近江八幡市にある近江兄弟社単位制課程の不登校生徒への支援体制を取り入れることである。すべて採用しなくても、A 町の不登校の実態に応じ、形を変えて取り入れてはどうかと考える。小さな取り組みでも、不登校状況の改善を願う強い気持ちがあれば、必ず子どもの変容につながると思われる。A 町の教員の熱意が周囲の教員・家庭・専門機関とうまく連動すれば、A 町の不登校支援は一步前進すると考える。